

J-PEAKS事業の概要

～日本の研究を牽引する大学として選出～

J-PEAKSとは・・・

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」は、地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした**戦略的経営**の下、**他大学との連携**等を図りつつ、研究活動の国際展開や**社会実装の加速**等により、**我が国全体の研究力の発展**を牽引する**研究大学群の形成**を推進する事業

【申請・採択状況、事業規模】

採択大学数 25大学

※ 申請大学数 134大学（採択率18%）

国内大学数 約800大学（採択割合約3%）

事業期間 2025年度から5年間（予定）

事業費 55億円（予定）

J-PEAKS採択25大学一覧



学長方針実現のため、J-PEAKS事業が果たす役割

- ①教育研究資金の好循環
- ②業務効率化・高度化の好循環
- ③エンゲージメントの好循環

①教育研究資金の好循環

J-PEAKS事業で九州工業大学が目指していること
「社会実装やスタートアップで稼いだ資金を
新たな研究シーズに再投資」

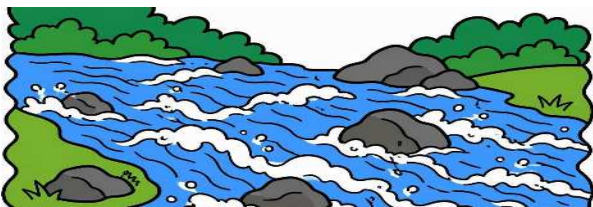
- 「稼ぐ大学」へ
- 「お金がないから」という消極的な理由ではなく九州工業大学としての原点回帰
- 九州工業大学の前身である明治専門学校と創設した安川敬一郎は、当初「九州商工大学」も考えた
- 120年近く、科学技術とビジネスを繋げることを考え続けてきた
- これまでは、アカデミアに対するインパクトを重要視
- 社会に対するインパクトにもっと目を向ける

社会実装を阻む「魔の川」「死の谷」は結局「人材の谷」

基礎研究

応用研究
・開発

事業化

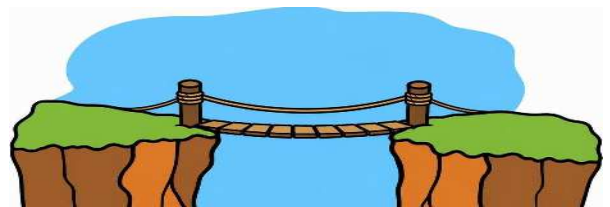


魔の川

Devil's River

基礎研究の成果が製品・サービスのコンセプトに結びつかず、応用研究に進めない壁

対策: 産学連携・ニーズ探索

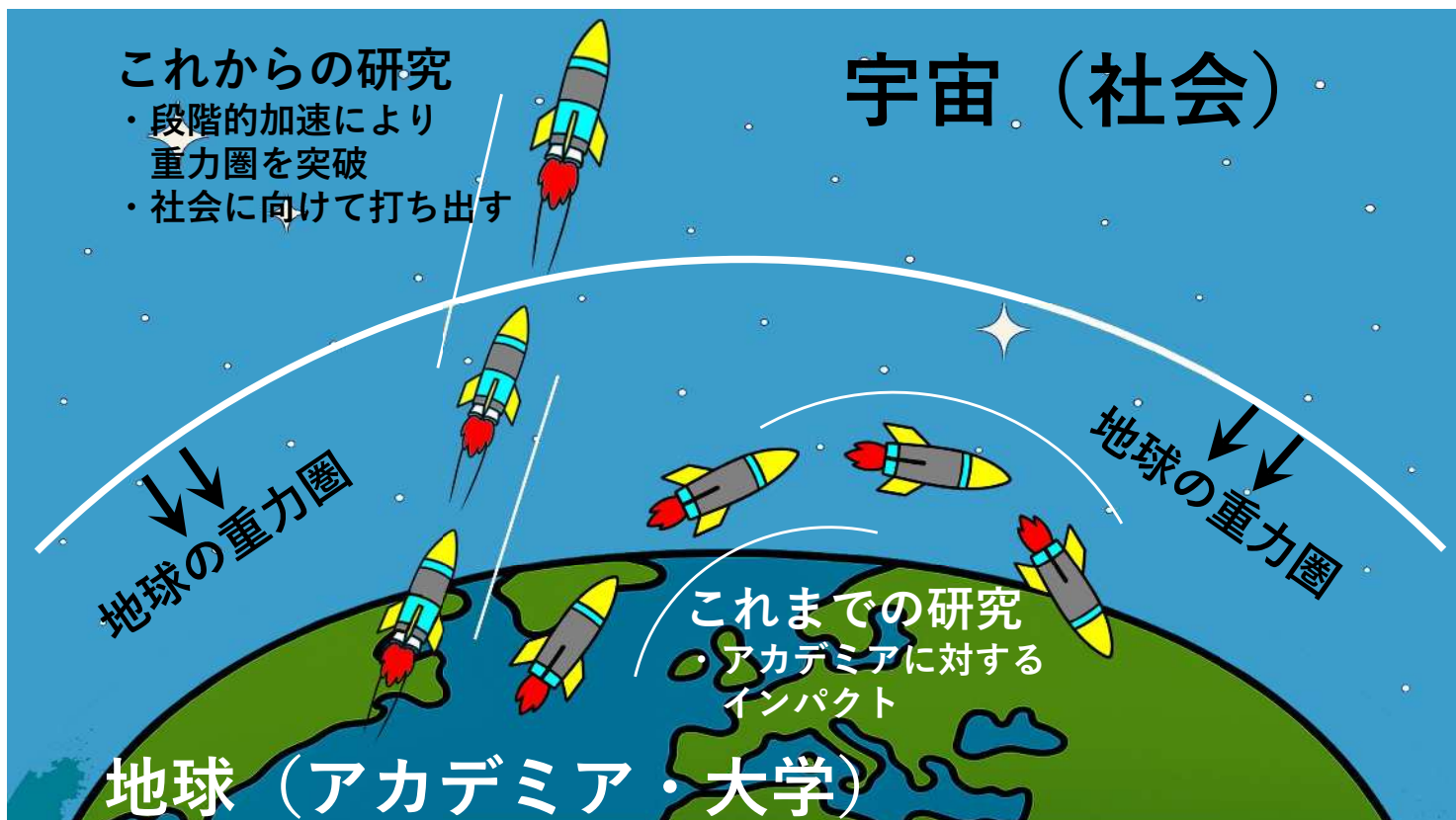


死の谷

Valley of Death

開発から事業化への移行で、量産技術・資金・人材の確保が追いつかない壁

対策: VC投資・インキュベーション



②業務効率化・高度化の好循環

J-PEAKS事業で九州工業大学が目指していること
「業務の効率化を行い、それにより生じた人的・
経済的リソースを更なる業務効率化・高度化に活用」

- お金がないからコスト削減ではない
- 研究者の研究時間の確保
 - 第7期科学技術イノベーション基本計画で「研究時間50%確保する大学を20大学」
- 学生と対話する時間の確保
 - 教育は効率だけを追い求められない
- 大学本来の業務に時間を使いたい

未来の職場イメージの全学共有



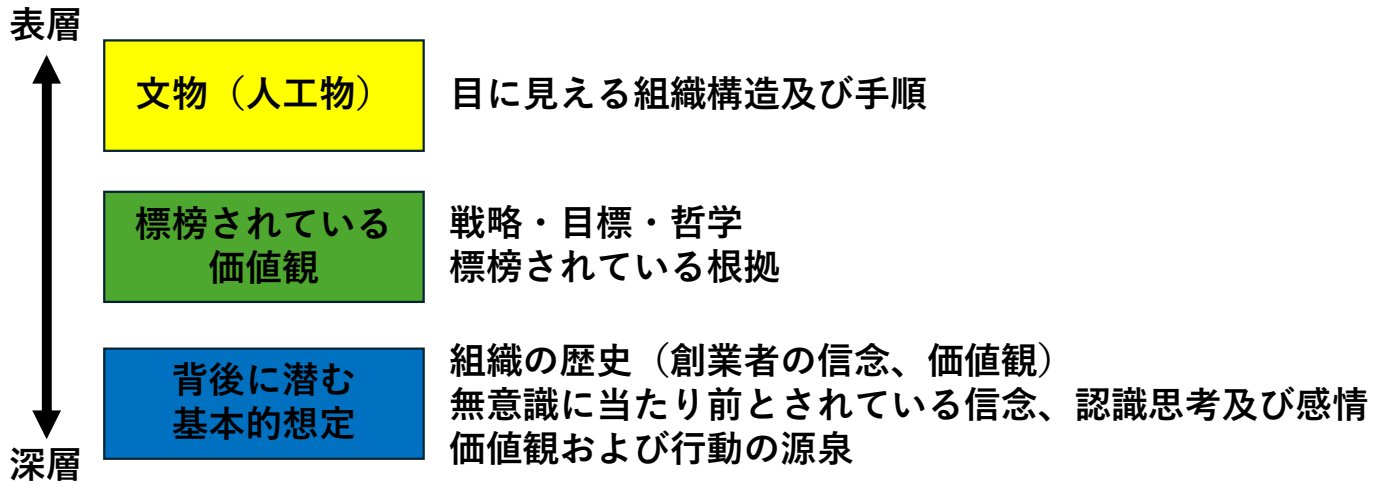
③エンゲージメントの好循環

学長方針：「誇りの醸成」 「教職協働」

- 大学経営に関しても教育職員（研究者）中心になっている現状
- 経営改革を実現するためには、お金や人事に関する仕事をしている事務職員の高度化・活躍が必須
- 九州工業大学では、過剰な権威付けが生じないように全学的な会議では「先生」という呼称を使用しない方針
- NHK様では、科学番組において大学の教授を「さん」付け

組織文化の見直し

組織文化の3つのレベル



Schein.E.H.(1985)